

目次

君たち合掌を知らんのか	2
大人がしないから子どももしない	7
「生老病死」が「家の外」に	13
人に迷惑をかけるのが人間	15
紙の裏表をはがそうはがそうと	20
日本を動かす人たちの中に	26

表紙絵・挿絵／臂 美恵

ほっわ・HOWA・法話19

合掌ができる社会へ

三上 章道

君たち合掌を知らんのか

一九九〇（平成二）年、後継者を探しておられた滋賀県大津市の寺に、家族四人で入寺して住職を継ぎました。滋賀県の面積の六分の一を占める琵琶湖の南を湖南、東を湖東、そして湖西、湖北といいますが、私が住む湖南あるいは湖東地域では、田畑や丘陵が開発され新しい住宅街が広がっています。

入寺して十年ほど経った頃、二十人ほどの子どもたちの集まりでおつとめ（読経）をする機会がありました。始めようと合掌して、ちよつと振り返ってみたところ、半分くらいの子どもが合掌をしていません。後ろへ向き直って、「君たち合掌を知ら

君たち合掌を知らんのか

んのか」と聞くと「知らん」と答えます。「家でご飯食べるときにするやろ」と尋ねると、「してない」という返事が返ってきました。私は「合掌ができない子どもたち」が存在することにたいへんおどろきました。そして、この子たちが「してない」ということは、その子たちの親も合掌をしていないのではないかと思ひ、愕然がくぜんとしました。



このことがきっかけで、『合掌ができない子どもたち』（白馬社）という本を出版しました。そもそもは、仏教雑誌「自照同人」（自照社出版）に同名で連載したものをまとめたものですが、出版にあたって書名を「合掌を知らない子どもたち」にしようか、とも考えました。「合掌ができないのは「合掌を知らない」からではないかと思っただからです。

例えば、私が小さい頃に遊んでいたコマ回しが、今のほとんどの子どもたちにはできません。そもそもコマ回しを知らないのです。そのことと似ています。凧揚げ、鞠つきなども同様です。これらの遊びは、算数や漢字のように学校で教えられるのではなく、両親、兄弟、祖父母や近所の子や大人に教えてもらいました。この五十年、核家族が増えて家庭に祖父母はいなくなり、地域のつながりが薄れていくなかで、（知らないから）でき

ない子どもが増えました。

「合掌」も同じように、家庭や地域（寺）で教えられてできるようになりました。「合掌」はコマ回しのような「遊び」ではありません。特別な「道具」が必要なことはありません。でも、「合掌ができない子ども」は増えていくのです。そして、「できない子ども」がそのまま「大人」になっているようです。

「合掌ができない」ということではこんな経験もしました。僧侶の服装（ふほろ・わげさ）で京都市内のタクシーに乗ったとき、運転手さんが「お坊さんに言いたいことがあるんです」と話し始められました。

「観光で京都へ来た三、四人のグループをいろんなお寺へ案内することが多いのですが、お堂の中まで連れていくと、仏像の前に行って『わーきれい』